ごあいさつ

山陽特殊製鋼株式会社
代表取締役社長

武田　安夫

基本に立ち返り、経営理念「信頼の経営」を軸に健全な事業経営を志します。

当社は経営理念として「信頼の経営」を掲げ、誠実・公正・透明な企業経営を実践し、経済的使命・社会的使命を果たすことで、あらゆるステークホルダーから「信頼」を得られる企業となることをCSRの基本としています。しかしながら、当社は2012年9月に廃棄物の処理及び清掃に関する法律違反の容疑で、警察当局の捜査を受け、2013年6月に書類送検されました。

今回の送致は、当社が処分委託していたレンガくずの中に薄い鉄皮（金属くず）が付着したものが一部含まれており、これが処分委託先最終処分場（安定型）の取扱許可品目に入っていなかったことによるものです。

当社はこのことを厳粛に受け止め、今後二度とこのような事態が生じないよう、全社を挙げて改善対策を実施しています。役員・部署長が中心となって、環境パトロールを実施しているほか、外部講師による環境講演会を開催するなど、意識の底上げを図っています。

株主、お客様をはじめとするステークホルダーの皆様に多大なご心配をおかけすることになりましたことを、深くお詫び申し上げます。基本に立ち返り、従業員一人ひとりが法令はもとより、社会のルールや秩序を順守し、自律的に行動することで、「信頼の経営」の実践により一層努めていきます。

「高信頼性鋼の山陽」として、ステークホルダーの皆様の期待に応えていきます。

2011年度を初年度とする第8次中期経営計画では、世界の特殊鋼需要の伸びを確実に捕捉していく企業体質の構築を目指しています。そのための各種施策を着実に進めてきており、将来のさらなる成長に向けた事業基盤が整備されつつあると認識しています。

「高信頼性鋼の山陽」のブランド力をさらに向上させるため、技術先進性の拡大を目指し、TPM活動にも傾注しています。製造設備のトラブルや故障のゼロ化にも積極的に取り組み、社外大会で発表も行いました。これらの活動は、安全な職場づくりにもつながるものです。

企業を支えるのは言うまでもなく、人です。持続的成長を実現するための人材育成に注力するとともに、社会的使命のひとつとして、従業員がその能力を十分に発揮し、仕事と子育ての両立ができるよう、雇用環境の整備に継続して取り組んでいます。当社のこうした取り組みが評価され、2012年10月に次世代認定マーク（愛称「くるみん」）を取得しました。

また、中期経営計画の重点施策のひとつ「新興国の需要拡大や低炭素社会の進展に伴う需要構造の変化の把握と的確な商品開発・市場投入」は、当社の経済的使命のひとつです。インドに現地法人を設立して2012年4月に営業を開始、当社製品のマーケティング、販売、情報収集を行うとともに、同年9月には特殊鋼を製造・販売する合弁会社「Mahindra Sanyo Special Steel Pvt. Ltd.」を立ち上げました。拡大する特殊鋼の需要に、高品質な製品の提供で応える基盤づくりを着々と進めています。

そのほか、財団法人山陽特殊製鋼文化振興財団は、20周年を迎える節目の2013年4月に、ニュー・イヤー・コンサートや文化講演会、モノづくり支援を目的とした研究助成などの活動実績が認められ、公益財団法人への移行を果たしました。今後も、学術文化や地域社会の発展への貢献を目指し、取り組みをさらに深化させていきます。

第8次中期経営計画（2011年度～2013年度）

■経営基本方針

**「高信頼性鋼の山陽」の
ブランド力の更なる向上による
企業価値の増大**

◇ 技術先進性の拡大 先の先へ
◇ 国際競争力の更なる強化
◇ 当社各部門（営業・技術・生産）
及びグループ会社の更なる
連携強化による総合力の向上

新興国経済の勃興による世界経済の多極化や低炭素化社会の進展による需要構造の変化等を危機と同時にチャンスとも捉え、非価格競争力をより一層高め、その上でコスト競争力の強化も同時に図ることにより、国際競争力のある企業体質の確立を目指す。

これをもって、将来の利益成長への確かな道筋をつける。また、事業基盤をより強固なものとするための諸施策や、健全な財務体質を維持した上での成長戦略の推進は従来通り実施する。

■重点施策

1）新興国の需要拡大や低炭素社会の進展に伴う
需要構造の変化の把握と的確な商品開発・市場投入
2）適正なマージンの確保
3）非価格競争力の更なる強化
4）需要構造の変化に対応しうる上方弾力性の確保
5）環境に優しいモノづくりの追求
6）持続的成長を実現するための人材育成

新製品・新設備を通じて
低炭素社会の進展に貢献します。

私たちは、事業活動の全ての段階において環境の保全に配慮し、循環型社会の構築に貢献することを「環境方針」に掲げています。さらに、中期経営計画でも「環境に優しいモノづくりの追求」を重点施策のひとつに掲げ、環境負荷の低減や、省エネ・創エネにつながる製品を開発し、需要家に提供しています。

2013年夏には、グリーン調達に対応して、鉛を使わず環境に優しい鉛フリー快削ステンレス鋼「QS12E」や、金型の長寿命化に寄与する窒化粉末ハイス「SPM X4N」を開発しました。そのほか、2012年度には、軸受などの小型化を実現する軸受鋼「PremiumJ2」や、金型の長寿命化に寄与する熱間金型用鋼「QT41- HARMOTEX」も開発し、需要家の支持を得ています。

さらに、製品製造の段階でも「環境に優しいモノづくり」を追求しています。2012年7月に本格稼働を開始した第一製鋼工場の60トン連続鋳造設備は、従来のインゴット鋳造設備に比べて生産効率が良いため、省エネルギーや資源の有効活用の効果が期待できます。今後も低炭素社会の進展に伴う需要構造の変化を把握し、的確な商品開発や設備投資に傾注していきます。

「着眼大局、着手小局」でCSR活動を実践し、
当社への「信頼」を高めていきます。

目標があれば、課題も見えてきます。課題が見えてくれば、すべきことも自ずと明らかになります。私の座右の銘「着眼大局、着手小局」は、物事を大局的にとらえながら、足下の小さなことから着手することで、着実に歩を進めていくということです。コンプライアンスをはじめとして、CSR活動においても、従業員一人ひとりが大局観を持って目標を定め、自分から具体的に働きかけることで、さらなる一歩を踏み出し、当社への「信頼」を一層高めていきたいと思います。

2013年度は、創業80周年を迎える節目の年であり、第8次中期経営計画の最終年、次なる成長戦略「第9次中期経営計画」を策定する年でもあります。第8次中期経営計画で掲げた諸課題を確実に推進するとともに、企業経営を取り巻くさまざまな環境変化を危機として注視するにとどまらず、チャンスに転じることができるよう、次期中期経営計画の策定に取り組んでいきます。

本報告書を通じて、私たちの活動内容をご理解いただき、一層のご支援とご助言を賜りますようお願い申し上げます。